

# 統計家の役割:これまでとこれから

成蹊大学 岩崎 学

2013年は国際統計年 (International Year of Statistics) であり, それに呼応するかのよう統計学への関心が一気に高まった年でもあった. Google のチーフエコノミストの Hal Varian が

"I keep saying the sexy job in the next ten years will be statisticians."

と述べたことで, 統計家が「セクシーな職業」として認知されたことも大きかった. 私自身, これまでの統計学のコミュニティ以外からの講演依頼も多々あり (岩崎 (2013, 2014b, 2015) など), 新聞や一般誌などへの寄稿の機会もあった (岩崎 (2014a, 2014c) など). ちなみに Varian は上記に続くフレーズで

"The ability to take data—to be able to understand it, to process it, to extract value from it, to visualize it, to communicate it—that’s going to be a hugely important skill in the next decades, not only at the professional level but even at the educational level for elementary school kids, for high school kids, for college kids."

と述べており, 私は依頼講演など事あるごとに必ずこの部分にも触れてきた.

統計家のこれまでの役割は, 主として統計学の研究および大学などにおける教育であった. しかしここ数年, 統計学の裾野を広げるための活動がさらに重要な位置を占めるものとなり, 社会からの期待に的確に応えるための活動が必須のものとなりつつある. 統計検定の運用はその一つである. 統計学の水平展開とも言うべきであろうか. 一方で, 統計学に関する学術書の出版が相次ぎ, 統計関連の学術雑誌のページ数は増加の一途をたどっている. 私自身, 自分の興味のある狭い分野でしかフォローできていないのであるが, 統計手法の理論的な深化もすさまじい勢いで進んできているとの実感もある. 統計学の垂直展開である.

私は, 統計家の役割の第一は, 種々の統計手法に関する, その発展の歴史を踏まえた正しい理解と, それを周辺に伝えることであると考えている. 周囲の期待もそこにあるのではないか. 種々の科学研究やビジネスの現場固有の知識と経験を個々の統計家が持つことは, よほどのスーパーマンでない限りできないであろう. 「協力」が必要とされる所以である. 自戒をこめて言うならば, これまでの「統計」の狭い範囲にとどまらず, こと統計手法に関しては誰にも負けないという自負を持ちつつ, 統計手法の革新的な応用の可能性を見据え, 新たな地平を切り拓いていく覚悟が必要である.

## 参考文献

- 岩崎 学 (2013) 今, 改めて問う統計解析の価値. IBM SPSS 統計フォーラム特別講演.  
岩崎 学 (2014a) 統計的因果推論の考え方. 現代思想, 2014年6月号, pp. 86-97.  
岩崎 学 (2014b) ビッグデータ時代のデータ活用術. ケーブルフェスタ 2014 セミナー講演.  
岩崎 学 (2014c) ビジネスの場で生かす統計解析. 日経産業新聞 2014年6月10日.  
岩崎 学 (2015) ビッグデータ時代の統計学の役割. 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 114, No. 485, pp. 143-146.